

シ ラ バ ス

(神戸大学・東京六甲クラブ・ミニ MBA 塾・第 5 期)

開 講 期 間	2017 年 1 月～2018 年 1 月 (月 1 回×3 時間×13 回)
担 当 講 師	大住敏之 (但し、「生産管理」を担当する講師は別途指名)
受 講 対 象	神戸大学の理工系学部卒業生 (希望があれば文系学部&他大学の卒業生も)
講 義 の 概 要 & 特 徴	・経営の実践体系理論 (MBA プログラムのコア科目に相当) を論じる。 ・その背景にある考え方： i) 現代の我々は「組織」という世界に住んでいる。あらゆる「組織」の運営には経済学・経営学的思考を必要としている。 ii) 経済学・経営学的思考は、主に営利企業を対象としているが、実はあらゆる組織 (役所・学校・病院・軍隊・美術館・自治会・NPO 等) のオペレーションに有効。 iii) 実社会に出て 10 年もすると、エンジニアであっても、マネジャー的業務に直面、MBA プログラムの知見が必要になる。(特に会計、ファイナンス、マーケティング、組織行動論) iv) アメリカの有力ビジネス・スクールでは、学部時代に理工系を専攻した者が半数以上を占めている。卒業後、Engineering + MBA というバックグラウンドを生かし、経営の第一線で実績を挙げている。(日本企業は未だ生産現場一流、本社三流から脱却できていない) v) 日本以外の先進諸国・新興諸国では幹部候補に対し、世界標準の洗練されたテキストを使い実に効果的に経済・経営教育を行っている。偏狭な攘夷思想に捉われず、正統かつグローバル・スタンダードの理論体系をベースに講義を展開。 vi) 経営の実践体系理論は、リベラル・アーツや純粋理論ではない。また、日本の経営書によくある精神論・根性論・経験論もしくは理論拔きのハウツー・モノとは一線を画すものである。現実の経営を理論化・体系化しているので汎用性と応用性に優れる。 vii) 経済学・経営学の全領域を扱う講義 (経営学総論 or MOT) では、専門に特化した教員が入れ替わり立ち替わり登壇し、前後の脈絡に関係無く自分の専門分野を講じるのが通例だが、(生産管理を除き) 一人で担当するメリットを生かして俯瞰的・横断的視点に立ちながら相互関連性、相互位置関係、全体像を強調する。 viii) 経済学・会計・ファイナンス理論を主軸に、ビジネスの実践現場での有効性と耐久性に照らしながら、経営学の全構成分野を論じ

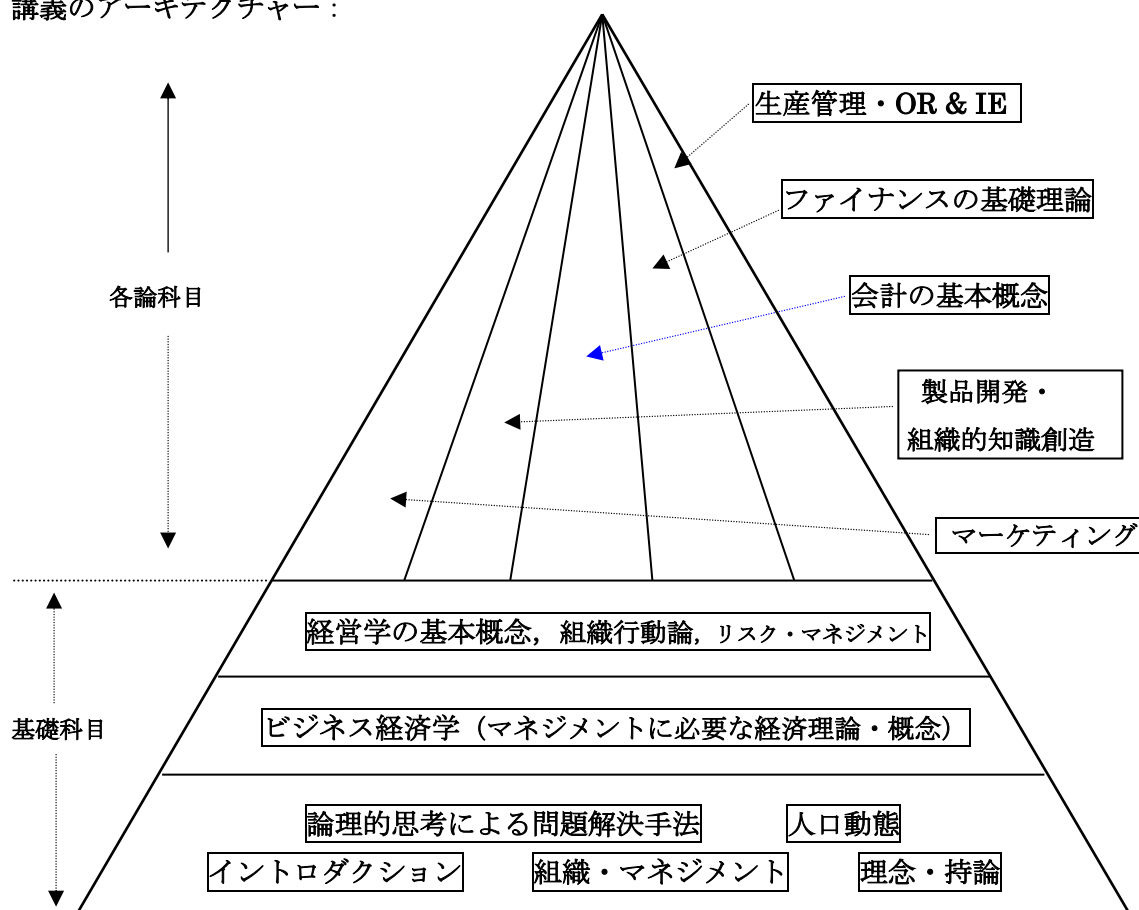
	るところが “Blue ocean”.
講義の モットー	・ “良い理論ほど実践的なものはない” (There is nothing so useful as a good theory. ; クルト・レビン) ・ 良い理論は、自明でなく意外性があり、学ぶことが楽しい。常識と直感に基づく判断の過ちを正してくれる効能を有する。
受講資格・ 予備知識	・ 特になし、政治・経済・経営・行政に対する知的好奇心のみ。
講義 の 到達目標	i) 経済学・経営学のベースになっている基本的考え方、実践に有用な代表的理論・概念を体系的に理解。現実問題への適用事例を体得。 ii) 広く・体系的に MBA コア科目のエッセンスを学ぶことにより、量的・質的に最強の学習方法である「自学自習能力」を身につける。 iii) 現実の問題解決を論理思考で時間的・労力的に効率よく正しく行う能力。 iv) 現実の諸課題が、大学のカリキュラム別に分類されて存在しているわけではないし、組織図の業務職掌を尊重して向かってくるわけでもない。マネジメントの全体観・鳥瞰図（海図 ; Chart）を持つことで、組織を預かる人間にとって致命傷になる盲点（知識・経験・情報のない課題、即ち予期せぬ岩礁）を極小化するのが狙い。 v) どのような事態でも、自信を持って迅速に正しい方向に第一歩を踏み出し、組織をリードすること。 vi) 情報洪水の中で流されないための思考軸・プリンシプル・インテグリティを身につけるには正統理論（Good Theory）の理解とこれに立脚した、しっかりとした思考訓練（Discipline of good thinking）が不可欠。
教材	・ 毎回 40~60 ページの独自テキストを事前に配布（MBA コア科目を網羅し理論的整合性の取れた市販の教科書は、残念ながら存在しない） ・ 配布テキストの事前熟読（リーディング・アサイメントーⅠ） ・ 別紙記載の 5 冊の書籍を読むこと（リーディング・アサイメントーⅡ） ・ テキストをプロジェクターでスクリーンに映しながら、少人数ゼミナール形式で説明（情報量が少なく真意が伝わらないので、パワーポイントは使用せず） ・ 質問・意見は随時 OK、自由闊達な双方向講義。 ・ 受講生日常業務上の実際の問題を取り上げその解決方法を議論。 ・ レクチャー・レビューの提出；講義で印象に残った理論、心に響いた

講 義 方 法	箇所、取り上げたテーマに関連する記事を新聞・雑誌から選びその要約と自身の見解をまとめ当該月末に提出。（指名により適宜クラスでプレゼンテーションも） ・クローズド・グループウェア活用により、クラス・メンバーをネットでコネクトし、クラス外でも常時、質問・意見交換を行う。 ・講義時間は、午後7時から10時まで。六甲クラブのご厚意に甘えて、夕食と Drink 付き（You can't study on an empty stomach.） ・会社で中核業務を担っておられる皆さんの苛酷なハード・スケジュールに鑑み、希望があれば翌週補講を実施（セカンド・チャンス） ・既にお気付きのように、1) 読み（Reading Assignment）、2) 聴き（Lecture）、3) 話し（Discussion）、4) 書き（Lecture Review）、5) 飲食（Meal & Drink）で五感をフルに使えば、無理に暗記しなくても若い皆さんの頭脳には MBA コア科目がシステムティックに蓄積される。 ・皆さんが慣れ親しんだ日本の大学の講義とは異なり世界水準の講義を目指している。負荷の比率は；予習 30%、講義 40%、復習 30%
講 義 日 程 & 内 容	1. イントロダクション：-----1月18日（水） ① 自己紹介 ② 講義方針・プロトコール ③ ビジネス上の持論 ④ MBA プログラム 2. 問題解決手法：-----2月15日（水） ① 人口動態論（オーナス問題・タイムマシン経営） ② 世界のマグニチュード理解 ③ 論理思考による問題解決手法 3. ビジネス経済学(I)-----3月15日（水） ① 経済学の基本コンセプト ② 経済モデル ③ 経済システム ④ 経済体制の歴史的展望 4. ビジネス経済学(II)-----4月12日（水） ① 産業組織論 ② 生産コストの理論 ③ ビジネス経済学 ④ 情報の非対称性・ゲーム理論 5. 経営学(I)-----5月17日（水）

	① 経営学とは ② 会社組織 ③ 経営学の系譜
	6. 経営学(Ⅱ)-----6月14日(水) ① 経営戦略論 ② 組織行動論(人的資源管理・リーダーシップ論)
	7. 経営学(Ⅲ): -----7月12日(水) ① ブルー・オーシャン戦略 ② 一時的競争優位戦略 ③ リスク・マネジメント
	8. マーケティング論(Ⅰ): -----8月23日(水) ① マーケティングの基本コンセプト ② マーケティング戦略・戦術 ③ サービス・マーケティング
	9. マーケティング論(Ⅱ): -----9月13日(水) ① デジタル時代のマーケティング ② ケース(小企業の商品開発事例)
	10. 製品開発 & 組織的知識創造: -----10月18日(水) ① 製品開発の本質 ② 製品開発とイノベーション ③ 製品開発プロセス ④ 組織的知識創造論
	11. 会計学: -----11月18日(水) ① 会計の基本コンセプト ② 会計原則・基準 ③ 財務諸表 ④ 財務分析 ⑤ (ケース) 会計構造・プロセスの一体理解
	12. ファイナンスの基礎理論: -----12月13日(水) ① ファイナンスの基本コンセプト ② DCFメソッド ③ 投資プロジェクト評価方法 ④ 企業価値評価方法(CAPM, Beta, EVA)

	⑤ ファイナンス理論上の留意事項 13. 生産管理 & クロージング：-----1 月 17 日（水） ① 生産管理 or プロジェクト・マネジメント ② MBA コア科目のエッセンス ③ むすびにかえて
そ の 他	・ 冬・春にフィールド・サーベイを計画； ① JFE 千葉製鉄所見学 ② その他首都圏の企業見学 ・ 第 I 期～第 IV 期生との交流会（年 2 回）

講義のアーキテクチャー：



自己紹介

- ・大住敏之 (Toshiyuki OSUMI, ©TLXXVI), 生れは兵庫県の日本海側, 但馬の国, 高校は兵庫県立篠山鳳鳴高 (典型的なしかし誇り高き田舎者). 大学は神戸大経済学部 (1967 年卒, 新野ゼミ, 先生の自称二番弟子, サークルは南米研究会でキャプテン). 40 年前から横浜に居住, 妻と一男一女.
- ・川崎製鉄 (現 JFE スティール) で鉄鋼マンとしてのキャリアを全うし, 年季開け後はビジネスとアカデミック半々の生活.
- ・ビジネス面では, 海外を含む数社の社外役員・顧問を務めている. 自分では, 依然としてバリバリの現役ビジネスマンのつもり (収益責任と雇用責任は負わず).
- ・アカデミック面では, 2003 年より 9 年間, 青山学院理工学部大学院で兼任講師として教える (副学長に就任された教授の代講が始まり). 2007 年に, JICA プロジェクトによるマレーシア中小企業庁職員研修プログラムでマーケティング戦略を担当 (1 日 6 時間・5 日連続の英語による集中講義). 2008 年より立命館アジア太平洋大学 (APU) で, 経営学入門の講義を担当 (日本語コースと英語コース), 今年で 9 年目. また母校・神戸大学の客員教授を務めながら, 3.11 当日, 東京六甲クラブに一晚お世話になったことが契機で, 2011 年から理工系卒業生 (30~40 歳代) を対象に「ミニ MBA 塾」をスタート (今回で 5 期目). 更に故郷の養父市長から頼まれ, 市役所職員研修の講師も務める.
- ・会社でのキャリアは, 財務, 海外事業経営, 海外営業, 経営企画を担当 (米国に 2 度, アジアに 2 度駐在). 事務系社員の社費留学第一号として, カリフォルニア大学バークレー校で学ぶ (1973 年 MBA, ファイナンス専攻). これが契機となり若い時から海外事業の第一人者を自認し, この分野でのトップの方の隠れ参謀役を務める. ヘッド・ハンターからの誘惑を退け鉄鋼会社一筋を貫いたので, 企業組織ヒエラルキーの全職階でマネジメントを経験するとともに, 担当した職能はほぼ MBA コア科目を網羅している. 僕の競争優位の源泉.
- ・僕は学者ではなくビジネス・プラクティショナーなので, 高度な理論はよう教えられない. 理論の「クリエイター」ではなく, あくまで「ユーザー」. 但しバックに海外を含むブレイン・ネットワーク (産・官・学, 会計士・弁護士・コンサル, エンジニアのプロフェッショナル) を持っていて, 何でも教えてもらえるのが強み. 分からない事は数日待ってもらえれば答えられる.
- ・ミンツバーグ教授の下記の言葉が心の支えと目標 (『Managers Not MBAs』);
「私が経営教育で最も望ましいと思うのは, (パートタイムで) 教鞭をとる実務家で, 教育 40%, 研究 0%, 教務 10% (+実務 50%) だ. この形態は, アカデミックな志向と卓越した教育スキルを持つ実務家が教壇に立つ場合のみ可能」
- ・連絡先; e-mail : osumi7600@gmail.com / iPhone : 080-1160-7309

リーディング・アサイメントⅡ

下記書籍を購入のうえ，期日までに読んでおいてください．講義中に推薦する参考図書は，事後に読んでいただければ結構です．

1. 『実力大競争時代の「超」勉強法』
・ 野口悠紀雄著・幻冬舎刊-----2 月末
2. 『マネジャーの実像』
・ H. ミンツバーグ著・日経 BP 社刊-----5 月末
3. 『ブルー・オーシャン戦略—競争のない世界を創造する—』
・ W.C. キム&レネ・モボルニュ著・ランダムハウス講談社刊-----8 月末
4. 『競争優位の終焉』
・ リタ・マグレイス著・日経新聞刊-----8 月末
5. 『失敗の本質—日本軍の組織論的研究—』
・ 野中郁次郎他著・中公文庫刊-----10 月末